

第9回 遺伝子治療シンポジウム

“遺伝子治療のヒトへの応用：臨床研究の進展と課題”

主 催：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

後 援：近畿経済産業局、日本遺伝子治療学会

目覚ましい医学の進歩にもかかわらず、がんの死亡率は依然として増加し、我々人類は新たな感染症の脅威にもさらされている。遺伝性疾患に対する治療法もまだ確立されていない。そのような状況の中で、遺伝子治療にかけられる期待も大きいのであるが、20年以上が経過した現在でも難病治療のブレークスルーとはなりえていない。一方ではベクターによる発癌などの重篤な有害事象も報告されるなど、ネガティブな印象も現れてきた。しかし遺伝子治療の基礎研究も臨床研究も着実に進歩していることは確実であり、それは日米の遺伝子治療学会の内容をみれば理解できる。この芽を摘むことなく大切に育成する必要があるが、そのためには遺伝子治療の光と影を絶えず広く伝えて、多くの人が議論する状況を生みださねばならない。

1995年以來、我が国の遺伝子治療臨床研究は既に26件が大臣承認され、そのほとんどが実際に施行されてきた。独自の方法論に基づく研究も最近は増えつつある。特に2010年においては、2件がちょうど終了し、4件の臨床研究が進行しており、2件が臨床研究の準備を整えたところであり、以前と比べて遺伝子治療の臨床研究がかなり円滑に進められるようになった印象が強い。またまだまだ少ないとはいえ、参画企業も増加してきた。それでもなお、臨床研究に取り組む医師や研究者は、承認の手続きや、臨床研究の費用面、さらには対象患者の選択などで苦しんだり、もどかしい思いを抱いている場合が非常に多い。この遺伝子治療の実情を正しく伝えねばならない。

遺伝子治療シンポジウムは既に第9回を迎えたが、従来より広く参加者を募り、活発な議論を行ってきた。昨年の報告は日本遺伝子治療学会のホームページにも掲載されている。

今回のシンポジウムでは、我が国での癌と生活習慣病の遺伝子治療臨床研究6件を取り上げ、その実体を紹介し、継続して発展させるための方向性を議論したいと考えている。その内容は遺伝子治療学会を通じて広く発信し、制度の改革などについては必要に応じて関連機関とも折衝していく予定である。

このような企画を通じて、遺伝子治療が将来の有望な医療手段として着実に発展していくことを期待している。

日 時：平成23年2月1日（火） 13：00—17：30

場 所：千里阪急ホテル 2F クリスタルホール

（大阪府豊中市新千里東町2-1-D-1 TEL：06-6872-2211）

参加費：無 料

問合せ：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議（遠山、井上、藤川、魚谷、大嶋）

TEL：06-6459-6795 FAX：06-6447-7011

E-mail：moshima@kinkibio.com

【 プ ロ グ ラ ム 】

13 : 00 - 13 : 10

主催者挨拶 : NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 清水 當尚
日本遺伝子治療学会 理事長 金田 安史

第 1 部 : “癌遺伝子治療臨床研究”

13 : 10 - 14 : 10

座 長 : 田原 秀晃 (東京大学 医科学研究所 先端医療研究センター 教授)

田川 雅敏 (千葉県がんセンター 細胞治療開発研究部 部長)

演 者 : 那須 保友 (岡山大学病院 新医療研究開発センター 教授)

“新規がん治療遺伝子 REIC/Dkk-3-次世代がんワクチンとしての研究と開発”

演 者 : 珠玖 洋 (三重大学大学院 医学系研究科 がんワクチン治療学 教授)

“抗原レセプター改変リンパ球によるがん免疫療法”

14 : 10 - 15 : 10

座 長 : 小野寺 雅史 (国立成育医療センター研究所 成育遺伝研究部 部長)

藤原 俊義 (岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 消化器・腫瘍外科学 教授)

演 者 : 藤堂 具紀 (東京大学大学院 医学系研究科・TRセンター 教授)

“遺伝子組換えヘルペスウイルス G47Δ を用いたウイルス療法の開発”

演 者 : 平家 勇司 (国立がんセンター中央病院 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科 医長)

“HSV-TK 遺伝子導入リンパ球を用いた、同種造血幹細胞移植の開発”

15 : 10 - 15 : 30 休

憩

第2部：“生活習慣病の遺伝子治療臨床研究”

15：30－16：30

座長：森下 竜一（大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学寄附講座 教授）

大橋 十也（東京慈恵会医科大学 遺伝子治療学 教授）

演者：米満 吉和（九州大学大学院 薬学研究院 革新的バイオ医薬創成学寄附講座 教授）

“センダイウイルスベクターを基盤としたバイオ医薬品の開発”

演者：村松 慎一（自治医科大学 内科学講座 神経内科部門 教授）

“パーキンソン病の遺伝子治療”

第3部：総合討論

16：30－17：20

座長：浅野 茂隆（早稲田大学 理工学部 生命理工専攻 教授）

金田 安史（大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝子治療学 教授）

パネル討論

パネラー：谷 憲三郎 教授・那須 保友 教授・珠玖 洋 教授・藤堂 具紀 教授

平家 勇司 医長・米満 吉和 教授・村松 慎一 教授

17：20－17：30

第17回 日本遺伝子治療学会（JSGT）紹介

FAX : 06-6447-7011

E-mail : moshima@kinkibio.com

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 大嶋 行

参加申込書

第9回 遺伝子治療シンポジウム（2月1日）

どちらかに○印をご記入下さい。

シンポジウムに : 参加する ・ 参加しない

お名前 : _____

ご機関名 : _____

所属・役職 : _____

〒 _____

宛先 : _____

TEL/FAX : _____

E-mail : _____

（何人でもご参加いただけます。ご参加いただける方のお名前全てをご記入下さい。）

※誠に恐れ入りますが、1月27日（木）までにご返事下さいますようお願い申し上げます。

問合せ先 : NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議事務局（遠山、井上、大嶋）

TEL : 06-6459-6795 FAX : 06-6447-7011

E-mail : moshima@kinkibio.com